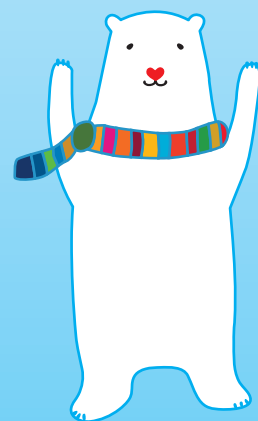




脱炭素

チャレンジカップ2020 報告書

Zero Carbon Challenge Cup 2020



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

脱炭素チャレンジカップは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



脱炭素チャレンジ2020

前身の低炭素杯から、数えて10回目の開催となる今回に、名称を改め「脱炭素チャレンジカップ」として開催することになりました。

「脱炭素チャレンジカップ」は、次世代に向けた脱炭素社会の構築を目指し、多様な主体が取り組む地球温暖化防止に関する活動を発表することにより、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指しています。

「脱炭素チャレンジカップ2020」は、ダイレクトエントリーと地域大会(5地域大会)の計183団体の中から選ばれた28団体がステージ上でプレゼンテーション審査に臨んでいただき、環境大臣賞や文部科学大臣賞などの各賞を決定いたしました。

開催にあたっては本事業に賛同していただいた企業・団体の皆様からのご支援・ご協力をいただき心より感謝いたします。

SDGs達成に向けて貢献



「脱炭素チャレンジカップは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。」

世界で気候変動問題が年々深刻化する中、「パリ協定」に基づき、世界の平均気温の上昇を産業革命前の2℃未満に抑え、脱炭素社会を構築することを我々は目指しています。

日本においても脱炭素社会の実現に向けて、社会全体での機運の醸成や効果的な対策への取組を強力に進めていく必要があります。

そのような状況の中、「脱炭素チャレンジカップ」では、様々なパートナーと出会える「場」を提供することによって、地域活動の活性化とネットワークの構築が促進され、あらゆる主体の連携が深まり、脱炭素かつ持続可能な地域づくりへの加速化が図られることを期待しています。

脱炭素チャレンジカップ SDGs 貢献 概要



脱炭素チャレンジカップ2020 挨拶



脱炭素チャレンジカップ実行委員会委員長

小宮山 宏

皆さん! 「脱炭素チャレンジカップ」のファイナルステージに、ようこそ!
実行委員長の小宮山宏です。
2011年、この東京大学で産声をあげた「低炭素杯」も、今年で10年目を迎え、名称を変えて、再び東京大学に戻ってきました。
昨年、日本の夏の猛暑、台風災害をはじめ、ヨーロッパでの熱波、アメリカでの寒波、オーストラリアの大規模火災など、世界的な異常気象、地球規模での気候変動について、いよいよ、私たちがこの身で体験するところまで来たのかと感じずにはおれず、10年続いた「低炭素杯」も、「脱炭素チャレンジカップ」へとシフトアップしました。
今後はこの日本でも、持続可能な「脱炭素」に向けた動きが、早急に必要だと私は考えます。
まずは、それぞれの立場で「脱炭素」に向けた活動に、気持ちと行動で取り組んでいく、「やってみよう」というアクションが必要なのです。
今日は、そういった「脱炭素」社会の構築に向けて、日本各地で、様々な立場でチャレンジしている28の団体にお集まりいただきました。
これらの個々のチカラが集結すれば、それこそ、地球規模での温暖化防止に役立っていくことも夢ではないと、私は考えます。
今日の晴れの舞台に立つ数々の取り組み、取り組む人たちの姿を、会場にお集まりの皆さんも、ぜひ目に、そして記憶に、焼き付けていってください!
さあ、それでは準備はよろしいでしょうか!
「脱炭素チャレンジカップ2020」、スタートです!

2020年2月19日

環境副大臣 佐藤 ゆかり



「脱炭素チャレンジカップ2020」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。
「低炭素杯」として2011年に初開催され、10回目となる今回は、名称を「脱炭素チャレンジカップ」と改めての開催となりました。本日は、その様な節目の大会であり、選りすぐりの28の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

さて、脱炭素化については、昨年6月にパリ協定に基づき策定した長期戦略において掲げた、今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」の実現を目指すという長期的なビジョンの実現に向けて、国民一人ひとりが持続可能なライフスタイルへと変革する、「ライフスタイルのイノベーション」が重要となっています。

そのためには、私たち一人ひとりが、気候変動の危機的な状況を正しく理解し、生活のあらゆる場面で、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など賢い選択「COOL CHOICE」を心がけ、気候変動対策を一層進めていく必要があります。

本日、この場に集われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地元の皆様に気候変動対策の自発的な行動を促していただき、気候変動対策の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、気候変動対策について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた小宮山先生はじめ実行委員の皆様、貴重なアドバイスを頂いた審査委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、最後に大変ご多忙の中、昨年に引き続き基調講演を引き受けて頂いた五箇先生に、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官 寺門 成真



脱炭素チャレンジカップ2020表彰式に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日、各賞を受賞される皆様、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において、素晴らしい取組をされているものと承知しております。皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

現在、地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会の構築に向けた活動の必要性は一層高まっております。「人生100年時代」を迎えようとする我が国において、幼少期から高齢期までの生涯にわたり、一人一人が持続可能な社会づくりの意識を高めるとともに、学校や企業、地域での活動等を通じて、課題解決のために具体的に取り組むことが、一層重要になると考えます。

文部科学省としても、学校における環境教育の充実や、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進をはじめ、ライフステージに応じた環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この「脱炭素チャレンジカップ」は、地球温暖化防止に向けた取組に関する優れた取組やノウハウを全国に広げていくとともに、プレゼンテーションや資料展示等を通じて、互いに学び合うことにより、持続可能な社会の構築に繋がる、大変素晴らしい取組と考えております。

本日お集まりの皆様におかれましては、これまで培ってこられた多くの経験や知見を活かし、益々御活躍くださいますよう、さらには、地球温暖化防止に関わる活動がより継続的・持続的なものとなるよう、今後の人材育成にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、脱炭素チャレンジカップ2020の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

開催概要

- 日程 2020(令和2)年2月19日(水)9:30～17:00(9:00開場)
会場 伊藤謝恩ホール(東京都文京区本郷7-3-1 東京大学キャンパス内)
入場料 無料(事前登録制)
主催 脱炭素チャレンジカップ実行委員会/
委員長:小宮山 宏(株式会社三菱総合研究所 理事長)
共催 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(以下「全国ネット」)
一般財団法人セブン・イレブン記念財団
特別協賛 ユニ・チャーム株式会社、株式会社ニトリホールディングス
協賛 レンゴー株式会社、一般社団法人日本WPA、日本マクドナルド株式会社、
公益財団法人SOMPO環境財団、株式会社ウェイストボックス、株式会社タカラトミー、
チェックフィールド株式会社、脱炭素化支援株式会社、一般社団法人ZEH推進協議会、
東部燃焼器具販売株式会社、株式会社森久、Gホールディングス株式会社
協力 株式会社オルタナ、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク
木原木材店(北はりま小径木加工センター)、こどもエコクラブ、ファインモーターズスクール、
キリンホールディングス株式会社
後援 環境省、文部科学省、プラチナ構想ネットワーク、国連広報センター
事務局 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
入場者数 延べ600名



委員会のご紹介

実行委員会

(順不同、敬称略)

- 委員長 小宮山 宏 : 三菱総合研究所 理事長
副委員長 川北 秀人 : IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表
岩谷 忠幸 : NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長
委員 星 劭 : 一般財団法人セブン・イレブン記念財団 理事/事務局長
高村 ゆかり : 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
山盛 英司 : 朝日新聞社 マーケティング本部 本部長
磯辺 信治 : 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室長
高田 研 : 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長

審査委員会

(順不同、敬称略)

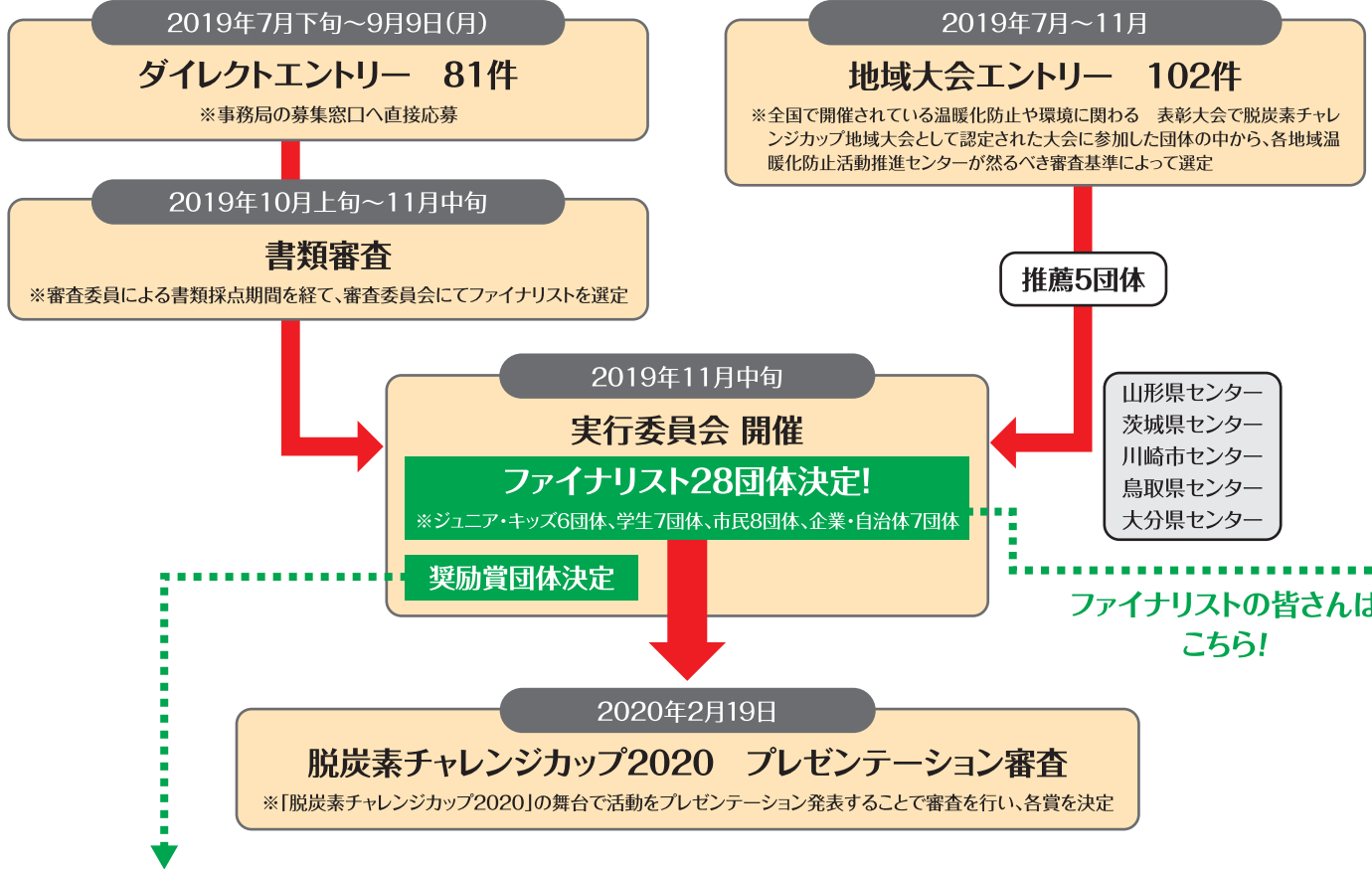
- 委員長 岩谷 忠幸 : NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長
副委員長 尾山 優子 : 一般社団法人環境パートナーシップ会議 理事 事務局長
委員 小野 弘人 : 一般財団法人セブン・イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー
桃井 貴子 : 認定NPO法人気候ネットワーク 東京事務局長
江守 正多 : 国立研究開発法人国立環境研究所 地球環境研究センター 副研究センター長
倉田 信弘 : ユニ・チャーム株式会社 CSR本部 品質保証1G 兼 環境推進Gマネージャー
田谷野 一吉 : 株式会社ニトリホールディングス 執行役員 社長室 室長 広報部マネージャー
古家 栄二 : レンゴー株式会社 環境・安全衛生部長
小川 勇造 : 一般社団法人日本WPA 事務局長
佐藤 孝治 : 公益財団法人 SOMPO環境財団 事務局長
鈴木 修一郎 : 株式会社ウェイストボックス 代表取締役
高林 慎享 : 株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長
森 撰 : 株式会社オルタナ 代表取締役 編集長

エントリー募集から「脱炭素チャレンジカップ2020」開催までの流れ



脱炭素社会づくり活動や地球温暖化防止に取り組む、学校、企業、自治体、NPO団体など

どちらへも応募可



奨励賞団体とは？

脱炭素チャレンジカップ2020では、エントリー団体の中から、ファイナリストに次ぐ優秀な成績を収めた団体に対し、「奨励賞」をお贈りしています。今年度は、以下の 奨励賞受賞20団体に対し、2019年11月に表彰状を贈りました。

部門	都道府県	団体名称	取組名
市民部門	静岡県	沼津工業高等専門学校と静岡県立工業高等学校の共同研究委員会	化石燃料に頼らない水素社会実現へ向けた実践的な環境教育
	佐賀県	はちがめ生ごみステーション市民の会	生ごみの有効利用による持続可能な地域社会を目指して
	栃木県	NPO法人とちぎ生涯学習研究会	どんぐりから苗木一本国民運動
	佐賀県	NPO法人嘉瀬川交流軸	やっかいな竹林の竹を活用して有明海の牡蠣礁を復活する
	奈良県	NPO法人市民省エネ・節電所ネットワーク	みんなで取り組む「市民節電所」で、脱炭素社会を目指そう!
	京都府	NPO法人加茂女	竹と筒でのビジネスモデル提言での町おこし
企業・自治体部門	佐賀県	自然と暮らしを考える研究会	地域の自然環境(水車の回る水辺)を活用した環境教育支援
	神奈川県	株式会社ファンケル	物流改革～「置き配」の水平展開と「小口」を「まとめ配送」へ～
	静岡県	株式会社都田建設	森と人のつながり 持続可能モデルの構築
	大阪府	株式会社スーパーホテル	公式HP予約による宿泊(エコ泊)のカーボン・オフセット
	埼玉県	株式会社ユニバック	SDGs対応低炭素中性能フィルタによるCO2削減事例について
学生部門	東京都	富士ソフト株式会社	効果見える化「グリーンアクション」によるペーパーレス普及活動
	栃木県	株式会社エコソー技術研究所	20年の長寿命 近赤カットでCO2も削減 ゼロコート
	宮城県	宮城県農業高等学校 農業経営者クラブ	森林が作る被災地オレンジロードプロジェクト
	青森県	青森県立名久井農業高等学校 環境班	目指すは21世紀の緑の革命 ～新農業技術で創る低炭素社会～
	徳島県	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム	資源循環型肥料の開発で地球を救う、環境社会イノベーション!
ジュニア・キッズ部門	大分県	大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜	パークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へ 最終章
	青森県	TEAM PINE	すべては農家のために!環境維持型農道ローンプロジェクト!
	東京都	品川区立山中小学校おやこエコクラブ	身近な自然を五感で学ぶエコクラブ～循環型社会を担う次代づくり
	和歌山県	上富田ふれあいルーム(あそび児童館エコクラブ)	上富田ふれあいルーム 防災年間計画!

ファイナリスト28団体(発表順)

部門	発表順	都道府県	団体名称	取組名
学生部門 (7件)	1	兵庫県	兵庫県立洲本実業高校	人と自然の豊かな関係をきづく社会実現に向けて
	2	京都府	京都府立木津高等学校 ソーシャルビジネス研究班	Kakishibuを世界基準に
	3	秋田県	秋田北鷹高等学校科学部ESD班	地球温暖化の知識・意識・行動の改善に関わる環境教育の実践
	4	東京都	学校法人自由学園 男子部(高等科)	「木の学び」～森づくりから木材利用へ 生徒の歩み～
	5	京都府	京都府立桂高等学校 コーヒー豆の活用に関する研究班	コーヒー残渣を廃棄物にしない!～循環型農業への挑戦～
	6	栃木県	宇都宮大学建築環境研究室	ナッジによる省エネ行動誘発に向けた情報デザイン法の構築と実践
	7	神奈川県	東京農業大学農学部・エリアンサスグループ	エネルギー作物のエリアンサスの栽培・利用システムの構築と普及
ジュニア・キッズ部門 (6件)	8	徳島県	徳島県上板町立高志小学校	地産地消・食品ロス削減を通してSDGsへの挑戦
	9	愛知県	劇団シンデレラwith逆川こどもエコクラブ	SDGsとESD こども脱炭素チャレンジミュージカル
	10	東京都	ガールスカウト東京都第172団	ガールスカウトのチカラでみどりを守る人を増やそう!
	11	長崎県	だいやエコクラブ	こどもツーリズム・エコ株式会社
	12	京都府	京都市立朱雀第四小学校	ESD for SDGs 持続可能な未来を考える環境教育
	13	福岡県	大牟田市立明治小学校	大好き大牟田!未来の大牟田のために、今、できること!
市民部門 (8件)	14	岡山県	岡山県学童保育連絡協議会	学童プレハブ-6℃作戦からの施設木造化の実現
	15	徳島県	NPO法人環境とくしまネットワーク	小さな自然エネルギーを活用した「限界集落再生」化プロジェクト
	16	大阪府	NPO法人いけだエコスタッフ	プラントベースレストラン「3RキッチンVegan」
	17	静岡県	ふじのくにCOOLチャレンジ実行委員会	ふじのくにCOOLチャレンジ クルポ事業
	18	熊本県	NPO法人田舎のヒロインズ	農村地帯でのRE100化を目指す女性農家たちの挑戦
	19	茨城県	千波湖水質浄化推進協会	アオコを肥料へ!荒れ地に命を!千波湖脱炭素市民プロジェクト
	20	鳥取県	湖底こううん隊	「湖底こううん」で底質環境改善～炭素循環で生物を守る!～
	21	山形県	ドリームやまがた里山プロジェクト	自動車部品廃材によるリサイクル品研究・開発
企業・自治体部門 (7件)	22	滋賀県	田中建材株式会社	ハーモニーロードウッド(木質加熱アスファルト舗装)
	23	東京都	大東建託株式会社	コンクリートから木へ。CLTで創る脱炭素社会の住まいと暮らし
	24	滋賀県	株式会社ダイフク滋賀事業所 日に新た館	CO ₂ 排出量ゼロの展示館による脱炭素社会促進活動
	25	福島県	会津森林活用機構株式会社・ 会津地域森林資源活用事業推進協議会	森林資源フル活用プロジェクト「森活」
	26	宮城県	株式会社三創	小さなエコから大きなエコまで実践体感、そして普及活動へ!
	27	大分県	株式会社マルミヤストア	地方特産品の食品リサイクル・ループプロジェクト
	28	神奈川県	マルイファミリー溝口・ノクティプラザ	みんなで地球をまもろう!～ごみの分別排出の徹底とリサイクルの推進～



ファイナリスト28団体(発表順)

10:00~10:12(受付開始9:30)

開会

- 開会の挨拶
脱炭素チャレンジカップ実行委員会
委員長 小宮山 宏
- ファイナリスト紹介
- 審査委員紹介



10:12~13:00

ファイナリスト28団体によるプレゼンテーション発表

発表時間 1団体4分

- 10:12 学生部門(7団体)
休憩(10分)
- 10:57 ジュニア・キッズ部門(6団体)
市民部門(8団体)
休憩(10分)
- 12:17 企業・自治体部門(7団体)



13:00~13:30

講演

続・教えて五箇先生!
「地球温暖化による生物リスクの最前線」

- 講演者
五箇公一さん
国立環境研究所
生態リスク評価・対策研究室室長



13:35~14:20

過去受賞団体から現在の取り組みについて
講演およびパネルディスカッション

- ・栃木県立栃木農業高等学校
- ・ファインモーターズスクール
- ・学校法人緑丘学園水戸英宏小学校・中学校
- ・認定NPO法人芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館



15:15~16:30

表彰式・閉会

- 主催者挨拶
脱炭素チャレンジカップ
副委員長 川北 秀人
- 審査結果発表
- 審査講評
審査・企業/団体賞選考委員会
審査委員長 岩谷 忠幸
- 閉会の挨拶
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事長 高田 研



受付ホワイエ・ポスター展示

受付ホワイエおよび、多目的スペースでは、共催・協賛企業/団体のご紹介コーナーやSDGsについてなど、様々な展示コーナーを設けました。また、ファイナリストの活動紹介ポスターを掲示し、プレゼンテーション発表で気になった団体に話を聞くなど、情報交換が行われました。



今年も人気のフォトコーナー登場



毎年恒例!ペーパーウエイト 提供:木原木材様より



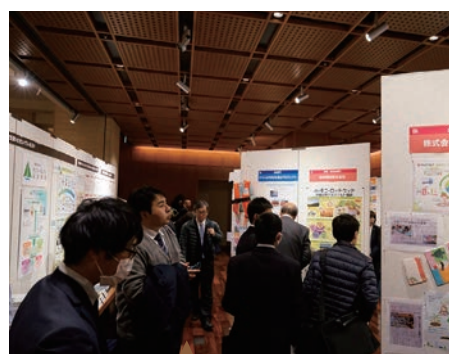
再生PET100%を使用したドリンクを提供
提供:キリンホールディングス様より



【注目!】国連広報センターから後援を頂きSDGsの紹介コーナーを設置 / 10年間の軌跡の年表を掲示!



ポスターセッションの様子



ステージプログラム①:講演(13:00~13:30)

注目! 続!教えて **五箇先生!**
地球温暖化による生物リスクの最前線!



講演者 五箇 公一さん

国立環境研究所
生態リスク評価・対策研究室室長

1990年京都大学大学院昆虫学専攻修士課程修了、同年、宇部興産株式会社農薬研究部入社。1996年:京都大学博士号(論文博士)取得(農学)同年:国立環境研究所入所、現在に至る。専門は保全生態学、農業科学。主な著書に「クワガタムシが語る生物多様性(集英社)」、「終わりなき侵略者との闘い「増え続ける外来生物」(小学館)」など。テレビや新聞等マスコミを通じて生物多様性・生態リスクの啓蒙にもつとめる。

昨年に引き続き、最新情報と共に、生物多様性の大切さについて、分かり易く講演をして頂きました。何回お話を聞いていても、五箇先生の世界に、引き込まれてしまいます。質問コーナーでは、来場者からも沢山の質問があり、丁寧にお答えいただき、貴重な交流となりました。



ステージプログラム②:低炭素杯から脱炭素チャレンジカップへ ～低炭素杯受賞者、10年の軌跡～ (13:35～14:20)

低炭素杯にて受賞された4団体にお越しいただき、それぞれ団体の取組について、ご講演いただきました。その後、パネルディスカッションにて過去、現在、未来について語り合いました!



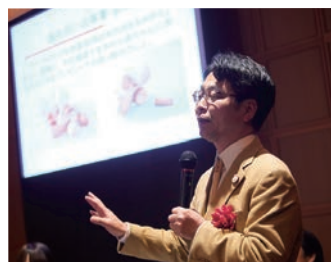
栃木県立栃木農業高等学校
(元・同校教諭 小森様)



ファインモータースクール
(齋藤様)



学校法人緑丘学園
水戸英宏小学校・中学校
(川島様、高橋様)



認定NPO法人芸術と遊び創造協会
東京おもちゃ美術館(馬場様)



パネルディスカッションの様子

懇親会(17:30～19:00)

表彰式終了後にファイナリストや、委員の皆様、ご協力いただいている企業/団体の皆様、地域地球温暖化防止活動推進センター職員など、脱炭素チャレンジカップに係わる方々にご参加いただき、懇親会を開催いたしました。所属している団体の活動内容や規模に拘わらず、情報交換や交流を深めました。



小宮山実行委員長から
優秀賞授与!

脱炭素チャレンジカップ2020表彰式



ファイナリストのよるプレゼンテーション発表後に開催された「審査・企業/団体賞選考委員会(審査委員会)」において、脱炭素チャレンジカップ2020の受賞団体を決定しました。

表彰式では、環境大臣賞グランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)の受賞団体が発表され、佐藤ゆかり環境副大臣より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

また、文部科学大臣賞(社会活動分野、学生活動分野から各1団体、計2団体)では、寺門成真文部科学省総合教育政策局社会教育振興統括官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

企業/団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞団体(10団体)へ、審査委員特別賞は岩谷審査委員長から受賞団体(1団体)へ、オーディエンス賞は小宮山実行委員長から受賞団体(2団体)へ賞状等が授与されました。

環境大臣賞トロフィー



第1回低炭素杯から風倒木や朽木を利用した独創的な環境大臣賞トロフィーを制作いただいている齊藤公太郎さん。

木々と暮らす中で地球温暖化を実感し、脱炭素チャレンジカップを応援する想いをトロフィーとして創り上げてくださっています。

今年は、齊藤さん在住の群馬県で、12年前に倒れた樺の大木がトロフィーの素材として用いられました。

当日は、トロフィー制作について、語って頂きました。



文部科学大臣賞トロフィー



低炭素杯2016より、文部科学大臣賞トロフィーを制作いただいているのは、青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。

須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は、薪窯で1,350度の高温でじっくりと焼きあげる焼締めの手法で、土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。

夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーからは、脱炭素チャレンジカップに相応しい風格と強いメッセージが伝わります。

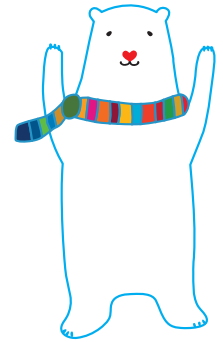


脱炭素チャレンジカップ2020受賞者一覧

環境大臣賞 グランプリ



おめでとうございます!



NPO法人田舎のヒロインズ

環境大臣賞 金賞 学生部門



京都府立木津高等学校
ソーシャルビジネス研究班

環境大臣賞 金賞 ジュニア・キッズ部門



だいやエコクラブ

環境大臣賞 金賞 市民部門



NPO法人いけだエコスタッフ

環境大臣賞 金賞 企業・自治体部門



大東建託株式会社

文部科学大臣賞 社会活動分野



劇団シンデレラ
with逆川こどもエコクラブ

文部科学大臣賞 学生活動分野



学校法人自由学園 男子部(高等科)

セブン-イレブン記念財団
最優秀地域活性化賞



京都府立桂高等学校
コーヒー豆の活用に関する研究班

ユニ・チャーム
最優秀エコチャージング賞



兵庫県立洲本実業高校

ニトリ
最優秀夢・未来賞



ガールスカウト東京都第172団

レンゴー
最優秀脱炭素未来づくり賞



大牟田市立明治小学校

日本WPA
最優秀未来へのはばたき賞



岡山県学童保育連絡協議会

SOMPO環境財団
最優秀わくわく未来賞



東京農業大学農学部・
エリアンサグループ

脱炭素チャレンジカップ2020受賞者一覧

ウェストボックス CO₂の見える化賞



湖底こううん隊

タカラトミー 最優秀次世代賞



京都市立朱雀第四小学校

オルタナ 最優秀ストーリー賞



株式会社ダイフク滋賀事業所
日に新た館

気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞

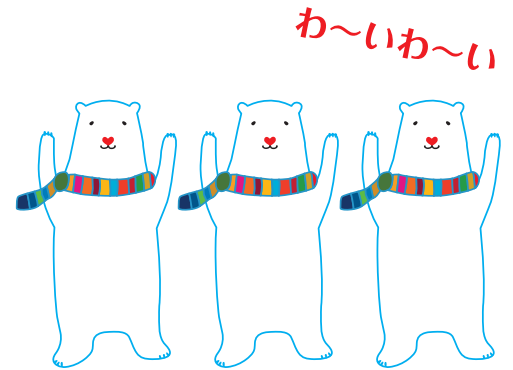


秋田北鷹高等学校科学部ESD班

審査委員特別賞



ふじのくにCOOL
チャレンジ実行委員会



マクドナルドオーディエンス賞



千波湖水質浄化推進協会



劇団シンデレラ
with逆川こどもエコクラブ



優秀賞

ファイナリストに選ばれたことを称賛し、実行委員会から以下の皆様へ優秀賞の賞状を贈呈いたしました。

- ・ 宇都宮大学建築環境研究室
- ・ 徳島県上板町立高志小学校
- ・ NPO法人環境とくしまネットワーク
- ・ ドリームやまがた里山プロジェクト
- ・ 田中建材株式会社
- ・ 会津森林活用機構株式会社
- ・ 会津地域森林資源活用事業推進協議会
- ・ 株式会社三創
- ・ 株式会社マルミヤストア
- ・ マルイファミリー溝口 ノクティプラザ



ファイナリスト紹介



市民部門

環境大臣賞 グランプリ

農村地帯でのRE100化を目指す女性農家たちの挑戦

NPO法人田舎のヒロインズ

〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併1283-3
☎080-3987-2160 <http://inakano-heroine.jp/>



女性農家たちによる「農家だからこそできる脱炭素への挑戦」。農地の一部で発電をし(ソーラーシェアリングなど)、できた電気の一部をつかって農産物の加工をする。そして廃棄する農産物を減らす。将来的には電気自動車を導入し、車に依存する農村での暮らしからCO₂を削減しつつ、農産物の価値や保存性を上げることを目指している。またこうした取組の普及や啓発のためのセミナーやイベント、出前授業を行ってきている。



審査コメント

車に頼らざるを得ない農業の現実がありながら、全国各地の女性の農家さんが有志で集まり、「RE100」(再生可能エネルギー100%)という高い目標を立て、「脱炭素」に挑戦する取り組みは本当に素晴らしいです。まさに「脱炭素チャレンジカップ」の環境省グランプリに最もふさわしい取り組みだと思います。農業分野における、脱炭素社会を目指してこれからも頑張ってほしいと思います。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

脱炭素に向けたたくさんの素晴らしい取り組みをされている団体さんがいらっしゃる中、「こういうことをしていきたい」という夢ばかり先行して、具体的なCO₂削減の実績には乏しい私たちの団体がグランプリを頂いたことに恐縮しております。とは言え、この度の受賞は審査員の先生方からのエールだと受け止め、農業と言う欠かせない産業の中でできる脱炭素の取組を加速させ、RE100にとどまらず、農村にこそ豊かな自然エネルギーを生み出していけるよう精一杯努力します。世界がこのような危機的な状況になる中、今まで以上に責任と希望を持って「食べ物とエネルギー」を創り出し、国が封鎖されても持続可能でいられる社会を目指していきたいです。

ファイナリスト紹介



学生部門

環境大臣賞 金賞(学生部門)

Kakishibuを世界基準に

京都府立木津高等学校 ソーシャルビジネス研究班

〒619-0214 京都府木津川市木津内山田34

☎0774-72-0031 <http://www.kyoto-be.ne.jp/kizu-hs/mt/>



世界のマイクロプラスチック問題を「柿渋」を使って解決する取り組みです。渋柿からとれる「柿渋」により、紙袋やペーパーストローを柿渋でコーティングし、今のレジ袋やプラスチック製のストローに代わるものを提供します。天然素材を使用することにより、循環資源として、私たちの住む木津川市で利用を普及し、いずれは世界の環境問題解決に繋げる事を目標にしています。木津川市は、かつて日本三大柿渋産地のひとつでした。



審査コメント

紙袋は強度の点で課題がありますが、昔から和傘などに使われてきた、日本の伝統技術である柿渋を見直し、活用している点はユニークですし、素晴らしいと思います。すでに全国規模の企業とも連携し、普及する段階に来ており、今後の展開が楽しみです。地元産の柿渋を活用しているため、地域活性化の観点からも期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は環境大臣賞・金賞(学生部門)を頂くことができ、とても光栄に思います。ありがとうございます。この一年間、アイデアが少しでも多くの人に届き、そして実現に近付けるようにと様々な方に協力・応援をして頂きました。今回、環境大臣賞という形で私たちの活動が評価されたことは、今後の自信に繋がりました。また、本番当日の4分間という短いプレゼンテーションの中で、自分たちが何を伝えたいのか改めて考え直すきっかけにもなりました。「Kakishibu」という天然素材は脱炭素を叶える力を秘めたものだ和我们は考えています。大会で受賞したことに終わらず、よりよくするためにチャレンジしていこうと思います!

こどもツーリズム・エコ株式会社

だいやエコクラブ

〒857-0874 長崎県佐世保市京坪町6-15黒田ビル103
☎050-7573-8981 <http://www.j-ecoclub.jp/ecoreport/profile.php?id=584>



だいやエコクラブのメンバーは、環境活動の取り組みとして「こどもツーリズム・エコ株式会社」を設立しました。メンバーが「社員」となり、SDGsをスローガンに掲げ、17の目標を達成するための、エコツアーやエコ主総会の企画運営・ツアーガイドを行う会社のような団体です。この会社は「エコ主」を募集します。そして、エコ主になる条件は、アルミ缶、不用品を持ってきて、リサイクル活動やフリーマーケットに協力する事です。



審査コメント

子供たちが主体的となり、環境活動のエコツアーを自ら主催し、ツアーガイドなども行っているほか、リサイクル活動を行った「エコ主」制度を作るなどユニークな取り組みをしていると思います。SDGsという大きなスローガンに掲げ、広い視野で活動されていると感じました。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は、名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。
全国から集まったファイナリストのみなさんの取り組みや活動がすばらしく、よい刺激を受け、脱炭素社会に向けての意識がさらに高まりました。
今後の予定では、参加してもらったエコ主と関係者の皆さんに集ってもらい、脱炭素チャレンジカップの報告会を予定しています。
こどもツーリズム・エコ株式会社は社員、エコ主、地域の皆さんとともに力を合わせて、「脱炭素社会」を目指してがんばります。
未来に生きるすべての生物が豊かで幸せに生きる「持続可能な世界」を実現できると信じ、私たちはこの活動を継続していきます。

ファイナリスト紹介



市民部門

環境大臣賞 金賞(市民部門)

プラントベースレストラン「3RキッチンVegan」

NPO法人いけだエコスタッフ

〒563-0058 大阪府池田市栄本町1-8

☎072-752-7711 https://www.instagram.com/3r_kitchen_vegan/



「畜産による温暖化」を抑制するため、植物性由来の食材だけを使ったVeganレストランを、週に1度月曜日だけ運営しています。これは、1人に毎日菜食より、10人に週1回だけ菜食をすすめる方が、持続可能で無理なく取り組めるからです。またプラスチックごみ問題の観点から、ストローやおしぼり、テフロン加工のフライパンなどを使用せず、また地域の農家の方から野菜をいただくなど、地産地消にも取り組んでいます。



審査コメント

「畜産による温暖化」の抑制を考え、食から「脱炭素」を目指した取り組みは非常に価値があると思います。「1人に毎日菜食」ではなく、「10人に週1日菜食」を勧めていることも、多くの人が賛同しやすい工夫をされていると感じました。脱炭素社会にとって、食は重要なキーワードの1つですので、今後の展開の広がりに期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

今回の応募に際して、より地域との連携を考えるきっかけになり、受賞したことでより私たちの将来ビジョンへの自信となりました。そしてなにより、これまで「いけだエコスタッフ」を応援し、支えてもらった方々への良い報告ができました。(みなさん、とても喜んでいただきました!)また他団体の様々なプレゼンテーションを聞き、気づきと学びの多い1日になると同時に、誰でも、どこでも、いつでも脱炭素社会への取り組みを始められるんだ、とあらためて実感しました。今後、脱炭素チャレンジカップで出会った方々とコラボして、新しい取り組みに発展できることを望んでいます。

コンクリートから木へ。 CLTで創る脱炭素社会の住まいと暮らし

大東建託株式会社

〒108-8211 東京都港区港南二丁目16番1号 品川イーストワンタワー22階
☎03-6718-9051 <https://www.kentaku.co.jp/>



脱炭素社会の建物は「コンクリートから木へ」。コンクリートに代わる木製建築素材CLT(直交集成板)に大きな注目が集まっています。しかし、割高な製造コストや技術的な課題があるため、いまだ一般的な普及には至っていません。そこで、大東建託は、CLT工法の独自開発や一貫供給体制の構築等に取り組み、日本で初めてCLT住宅の“商品化”に成功。CLT住宅を通し、脱炭素社会の住まいと暮らしの提供を目指します。



審査コメント

脱炭素社会に向けて、住宅は大きな課題の一つである一方、改善できることがたくさんある分野だと思います。大手の企業が率先して、「コンクリートから木」への転換を図ることは社会へのインパクトが大きく、非常に価値あることだと思います。脱炭素社会のために全国での普及に期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は、脱炭素チャレンジカップに生まれ変わった記念すべき年に、環境大臣賞 金賞(企業・自治体部門)という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございました。

当社のCLT集合住宅による都市の木造化の取り組みを高く評価いただけましたこと、関係者一同、大変光栄に思っております。

今回さまざまな地域や分野で活動をしているファイナリストの皆様取り組みを知ることができ、大変有意義でした。また、皆様が楽しみながら社会の脱炭素化にチャレンジされている様子に感銘しています。今回の受賞を励みとして、当社も全力で脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

文部科学大臣賞 社会活動分野 / マクドナルドオーディエンス賞

SDGsとESDこども脱炭素 チャレンジミュージカル

劇団シンデレラ with 逆川こどもエコクラブ

〒457-0042 愛知県名古屋市南区曾池町1-24-2

☎090-8499-0025

劇団シンデレラ <http://www.dozira.net/> 逆川こどもエコクラブ <http://sakasagawaeco.blogspot.com/>



文部科学大臣賞

社会活動分野

オーディエンス賞
マクドナルド
ハンバーガー1年分



ミュージカルを通じてSDGsを伝える劇団シンデレラ、泥だらけになって地域の環境再生でESDを広げてきた逆川こどもエコクラブ。伝える・広げる双方の持ち味を活かして世界湖沼会議や日韓環境交流等でコラボ。出先ではクラブキッズが自然観察会や学習会を指導し、シンデレラキッズが地域に見合ったミュージカルを公演。力を合わせて環境保全、クールチョイス運動、脱炭素の呼びかけに協働しながら全国を駆け巡っています。



審査コメント

プレゼンテーションの際の、ミュージカルによる脱炭素社会へのメッセージには心が打たれました。「SDGsのバッジをつけているだけで行動してないのでは?」との子供たちからの問いかけには、ドキッとしました。子供たち目線のメッセージで、全国の市民に脱炭素社会を訴え、行動を促してもらえたらと期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

世界湖沼会議2018で出会った愛知と茨城の子どもたちは、互いに行ってきたことの違いに気がきました。伝える劇団と実践のクラブが融合したら、自分たち周りの人もSDGs達成に向かう感動を与えられることを実感しました。地域を超えて距離を超えて頑張ってきたことともに、大きな賞をいただきましてありがとうございます。姉妹団体は、これからもコラボを続けます。

「木の学び」 ～森づくりから木材利用へ 生徒の歩み～

学校法人自由学園 男子部(高等科)

〒203-8521 東京都東久留米市学園町1-8-15 自由学園男子部

☎042-428-3636 <https://www.jiyu.ac.jp/activity/environment.php>



1950年より埼玉県飯能市で高等科生徒が植育林活動を続けています。近年では育ててきたスギを中等科の木工教材にするため高等科生徒が丸太を運び出し、麓の製材所で製材した板を乾かして学校で加工しています。2018年には飯能市森林認証協議会のメンバーに学校として加わり、植林地の森林認証を受けました。更に今年1月には、飯能市と森林整備に関する協定を締結して、地域と一帯となり森づくりと木材利用を生徒が実践しています。



審査コメント

70年間にわたる植育林活動の継続には敬意を表します。そして、植えた木が70年が経ち、森づくりから木材利用へと次のステージに入ったなか、行政と協定を結び、森づくりと木材利用の両面で活動の幅を広げている点は大変評価ができます。ほかの植林活動をしている団体等のお手本となる活動ではないかと思えます。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

今回は、貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。そしてこのような素晴らしい賞を受賞することができ、生徒たちの奮励が評価されたのではないかと、大変感無量です。生徒の発表にもあったように、本学の取り組みは受賞がゴールではありません。これまでの70年間の努力と炭素の蓄積を大切にしていき、さらなる発展のために今後も鋭意努力していきます。

学生部門

セブンイレブン記念財団 最優秀地域活性化賞

コーヒー残渣を廃棄物にしない！ ～循環型農業への挑戦～

京都府立桂高等学校 コーヒー豆の活用に関する研究班

〒615-8102 京都府京都市西京区川島松ノ木本町27

☎075-391-2151 <http://www.kyoto-be.ne.jp/katsura-hs/>

最優秀地域活性化賞
広報誌
「みどりの風」への
記事掲載



京都市はコーヒーの消費量が全国1位です。しかし、その背景には廃棄されるコーヒー残渣があることから、その活用に取り組んでいます。コーヒー残渣をさきのこの菌床栽培に活用することで、廃棄物から食料生産が可能となりました。しかし、収穫後には培地が廃棄されることに着目。廃培地をも堆肥として活用し、コーヒー残渣を最後まで捨てずに循環させることができるのではないかと、地元の企業や大学と連携しながら進めています。



審査コメント

コーヒー消費量が京都市は全国1位というところに着目し、地元の珈琲店で廃棄されるコーヒー残渣をさきのこの菌床栽培に活用する取り組みです。菌床栽培の収穫後には培地が廃棄されていたが、廃培地をも堆肥として活用し、コーヒー残渣を最後まで捨てずに循環させることにより、排出されるCO₂や廃棄コストを大幅に削減しています。栽培したさきのこのを店舗で提供するため、共同でメニュー開発を行い、地元の企業や大学と連携し、地域の活性化につながっています。コーヒー文化をもつ京都だからこそ、その廃棄物を活用し、最後まで使い切りたいと考えた視点と行動力が評価されました。

一般財団法人セブン・イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人

受賞者コメント

この度は、賞をいただきまして、ありがとうございます。まだまだ調査途中の部分もありますが、コーヒー好きの日本だからこそ、この研究を進める意味があると思っています。この受賞を通して、様々な方に私たちの取り組みを知ってもらい、コーヒーを扱う企業や日頃からコーヒーを飲んでいる方まで幅広く、少しでも環境にはたらきかけられる社会をつくっていきたくと考えています。今後も、引き続き研究を進め、この受賞に恥じない結果を出していきたいと思っております。ありがとうございました。

人と自然の豊かな関係をきづく社会実現に向けて

兵庫県立洲本実業高校

〒656-0012 兵庫県洲本市宇山2-8-65

☎0799-22-1240 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~sumoto-ihs/>



淡路島は、平成23年12月あわじ環境未来島特区に指定を受けた。本ユニットは、低炭素社会実現のために市民の省エネ意識や環境保全意識向上を目的とした活動を行ってきた。環境負荷の小さいソフトエネルギー研究の成果を基として、近隣地域住民にも協力いただき、風車街路灯や水車街路灯の設置、さらには東北絆ボランティア活動にも参加し、石巻市や陸前高田市自治会との協働により風車街路灯の設置も実現させてきた。



審査コメント

9年にわたり脱炭素社会実現に向けた再生可能なエネルギー活用に取り組み、持続可能な仕組み作りに励んでおり、取り組みの一環で地域住民と共に風車街路灯13基、水車街路灯3基を設置。この活動により、住民の環境意識や省エネ意識を高めました。

その活動は脱炭素社会実現に貢献していると評価し、また、当社が目指す「共生社会の実現」につながるモデルケースに該当すると考え「最優秀エコチャージング賞」に選出しました。また、東北「絆」ボランティアとし、仮設住宅への風車街路灯の設置や近隣の小・中学校への出前授業を行い、活動の輪を広げる取り組みを積極的に実施していることや、当日のプレゼンテーションにおける堂々とした自信に満ち溢れた発表も評価しました。

ユニ・チャーム株式会社 ESG本部 ESG推進部 人とペットの共生社会推進担当 主管 熱田 靖

受賞者コメント

本ユニットは専門高校の特色ある活動を生かし、風車・水車の研究を行っています。10年以上続く活動の中で各地で様々なボランティア活動を行い、ソフトエネルギーの重要性や可能性を再確認してきました。ソフトエネルギーは脱炭素社会を目指す上で外せないものであると考えています。今回はこのような場所で発表でき、評価いただいたことを誠に嬉しく感じています。また、他団体様の活動を知り、大きな刺激を受けました。この経験を生かし、これからも研究を続け、脱炭素社会を担える風車・水車の製作とそれを伝えるボランティア活動により一層、取り組んでいきたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

ニトリ最優秀夢・未来賞

ガールスカウトのチカラでみどりを守る人を増やそう！

ガールスカウト東京都第172団

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-13-11-512

☎090-6701-1776 <https://ameblo.jp/girlscout172/>



樹木医率いるNPOみどり環境ネットワーク！様と連携し、環境団体のイベントでスカウトたちが日ごろの訓練のスキルを生かし、自主的に運営や広報を担ってきた。その結果、折々のイベントの参加者の満足度の向上と参加人数の向上に寄与し、緑を守る人々を大きく増やしてきた。さらにその経験を活かし、商店会や社会福祉協議会とつながり、地産地消やエシカル工作教室の提供など、環境をテーマに地域のパイプ役として貢献している。



審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取り組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。ガールスカウト東京都第172団の皆様は緑を守る、そして緑を守る人を育てる活動を精力的に行っており、地域の方々と一緒に環境問題に取り組んでおられます。地産地消を推奨したり、「エシカル工作」教室を行うなどしてSDGsを意識する人を増やす活動は、まさに未来に繋がる素晴らしい取り組み内容であったと思います。今後も団員の皆様が主体的になり活動することで、より一層活動の輪が広がっていくことを期待しています。

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

学校や練馬の皆さんに報告し喜んでもらいました。ありがとうございます。次はこの活動を日本のガールスカウトに広めていきたいです。(中学生スカウト)発表は、しんさいんの人や大人の人がたくさんいてきんちょうしました。これからも、親せきの人や友だちにみどりの大切さを知ってもらうように活動したいです。(小学生スカウト)

大好き大牟田！未来の大牟田のために、今、できること！

大牟田市立明治小学校

〒836-0012 福岡県大牟田市明治町2丁目21番地1

☎0944-53-6017 <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/>



SDGsの項目7、項目11を達成させるために、エネルギーや自然・環境への関心を深め、「省エネ・省資源」「自然・環境の保持・美化」を実践できる児童を育成するために、各学年の発達段階に応じて様々な取り組みを行っている。「緑のカーテンづくり」「ソーラーキッチン」「川の水質調査や生き物調べ」等、体験的な活動を通して、実感をもってエネルギー環境について課題をとらえ、解決する子どもたちの姿が見られる。



審査コメント

明治小学校の取り組みは15年以上の活動実績があり、総合的な学習の時間を利用してエネルギー環境教育を継続し、SDGsの項目7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を達成すべく自分達で出来る事を考えさせ、行動出来る子供を育成しています。また地域一体となり、先ずは地域の現状を理解させ、環境保全に継続して取り組み姿勢は素晴らしく、何よりも大牟田市が大好きである事が伝わってきました。SDGsの目標達成に向けて、明治小学校独自に学年ごとのテーマを設定し、持続可能な社会を担う子供達の育成に努めている活動は、「脱炭素未来づくり賞」にふさわしい活動であると評価しました。

レンゴー株式会社 環境・安全衛生部長 古家 栄二

受賞者コメント

この度はこのような賞を頂戴し、誠にありがとうございます。他のファイナリストの方々のPRが素晴らしく、正直、選ばれる自信がなかったので、明治小学校の取り組みを評価していただきましたことに、本当に感謝しています。受賞報告をしたところ、子どもたちも先生方も、そして、地域の方々も大変喜んでおりました。来年度、出前授業もしていただくことになっており、楽しみにしています。これからも、二酸化炭素を減らすため、各学年の学習を充実させ、ちょっと頑張ればできる取り組みを継続していきます。また、子どもたちの頑張りを認め、自分たちの学びがSDGsのどこにつながっているのか、価値づけしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



市民部門

日本WPA最優秀未来へのはばたき賞

学童プレハブ-6℃作戦からの施設木造化の実現

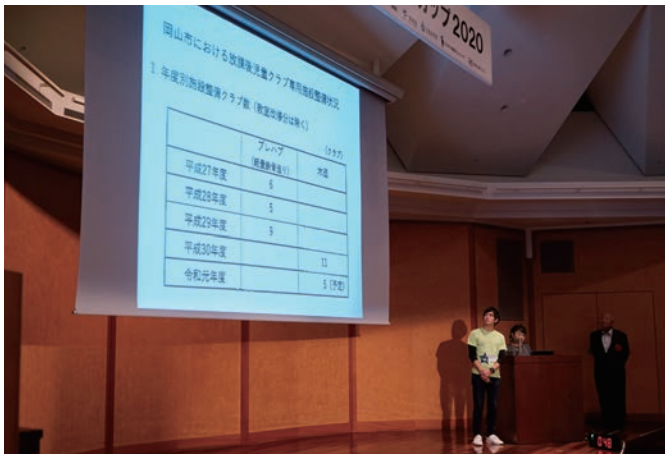
岡山県学童保育連絡協議会

〒700-0867 岡山県岡山市北区岡町14-9 岡町ビル201

☎090-7131-5672 <https://www.facebook.com/gakudoucool/>



2014年度岡山県多様な主体の協働による地域支援事業で、地域コミュニティ、NPO、地元企業とともに岡山市の学童保育プレハブ施設の環境改善に取り組んだ。この活動をきっかけに2016年倉敷市の学童クラブが、木造の施設建設を実現した。この取り組みを岡山市の学童保育担当課が視察し、岡山市の新築に関しては「木造」建築が基本方針となり、2018年度11施設が実現、2019年度も建設中。全国に発信している。



審査コメント

働き方改革を推進するうえで、共働き家庭の児童に「放課後のお家」を提供する学童保育の重要性がますます高まっている。学童保育施設を、簡易のプレハブから木造化することにより、未来を担う児童が安全で健康に快適に過ごせる施設になる。仮設のプレハブ施設では、空調の効果が不十分である。脱炭素の観点からも、空調エネルギーを低減できる木造化が有効である。折からの新型コロナウィルス感染症対策の「一斉休校」施策を支えているのが、学童保育施設である。施設の省エネルギー化、快適化が必須の課題である。

一般社団法人日本WPA 事務局長 小川 勇造

受賞者コメント

「学童保育」に注目いただき、感謝です。早速、SNSで報告し、全国の関係者に喜んでいただきました。現在、木造施設の建設に取り組んでいる他県のメンバーにも大きなエールが送れました。期せずして、その後の3月になって注目を集めてしまった「学童保育」ですが、着目して応援してくださる団体様、企業様がいらっしゃることを力にして、全国の学童保育施設の木造化を目指し、子どもたちが子どもの頃から木に触れ、地球環境について考えながら大人になっていけるようがんばりたいと思います。「学童プレハブ-6℃作戦」から協力いただいたNPO、中小企業家同友会、岡山県民局や木造化の英断をされた岡山市などに盾と賞状を持って報告に行く予定です。

エネルギー作物のエリアンサスの栽培・利用システムの構築と普及

東京農業大学農学部・エリアンサスグループ

〒243-0034 神奈川県神奈川厚木市船子1737

☎046-270-6220 <https://www.facebook.com/東京農業大学農学部デザイン農学科社会デザイン農学研究室-107527540592028/>

最優秀わくわく未来賞
財団主催の
環境講座イベント
ご招待



エリアンサスというエネルギー原料作物の特性の解明、栽培システムの構築、エネルギー変換と利用に関する研究を、卒業論文を含めて進めています。また、その研究成果を学会で発表したり、学術論文として社会的に発信するとともに、農学部のカリキュラムにも反映させています。さらに、オープンキャンパスや展示会で紹介し、福島県浪江町での栽培試験を踏まえて提案を行い、現場へのフィードバックを少しずつ進めています。



審査コメント

SOMPO環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来の環境保全につながる取り組みを応援しています。東京農業大学農学部・エリアンサスグループの「エネルギー作物エリアンサスの栽培・利用システムの構築と普及」は、国際的な批判を受けて厳しい状況にある石炭火力発電や原子力発電の新規活用が困難な日本にとって、有効な地球温暖化対策となるだけでなく、地域分散型エネルギーとして再生可能エネルギーの地産地消につながる取り組みでもあります。急速な人口減少が進む日本の農村地域における耕作放棄地対策としても更なる発展も期待できます。皆さまの今後の活躍に期待しております。

公益財団法人SOMPO環境財団 事務局長 佐藤 孝治

受賞者コメント

本企画への応募は、これまでの実績に毎年の活動を積み上げながら3回目、今回初めてファイナリストに残り、入賞となりました。私たちの活動は、再生可能エネルギーの利用を通して低炭素社会、さらに脱炭素社会の構築を目指すものですが、同時に日本の喫緊の課題である被災地の復興支援、農業振興、耕作放棄地対策にも寄与するものです。単に研究や教育に留まらず、その成果を社会実装することの実効性が上がってきました。このような活動内容をご理解頂き、しかも評価して頂いたことは大変ありがたいことです。グループメンバーのモチベーションがさらに上がりましたので、現場への還元に向けてさらに努力していきたいと考えています。



市民部門

ウェイトボックス CO₂の見える化賞

「湖底こううん」で底質環境改善～炭素循環で生物を守る！～

湖底こううん隊

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳3053番地8
☎090-1189-1369



2014年から毎月1回の定期耕耘と毎年1～2回のイベントを開催。地域の小学生と共に湖底耕耘と、水質および底質改善方法について体験型の学習会を実施した。2018年のイベントでは「掻い掘り」と呼ばれる池干しを行った。継続的に取り組みを展開していった結果、当初見られなかった底生生物が現れるようになった。また、国立米子工業高等専門学校と連携して、水質や底泥の厚さ等のモニタリングを継続的に実施している。



審査コメント

「湖底こううん隊」の皆さま、受賞おめでとうございます！

湖の底を手作業で攪拌、湖底にたまったヘドロを空気にさらし、メタンの抑制も含め湖底の生態系を守るという活動は、シンプルで効果ははっきりと分かる取り組みであると感じております。また、一過性の取り組みではなく、代々先輩から後輩に引き継がれ、地域で持続している取り組みという点に感銘を受けました。大きくCO₂を下げるためには、大規模な工業プロセスでの対策も必要ですが、一方でこうした地域毎に受け継がれ、地域に根差した個々の削減活動も重要です。今後もぜひ、こういった活動を未来へ繋げていってほしいと思います。

株式会社ウェイトボックス 代表取締役 鈴木 修一郎

受賞者コメント

この度はウェイトボックスCO₂の見える化賞にご選出いただき誠にありがとうございます。私たちが湖底こううんを始めて7年が経過します。本番のステージでもご説明させていただいたように、マンパワーで行うこううんは決して楽な活動ではありません。慣れていないときは筋肉痛を起こしたり、悪臭に対し苦戦を強いられましたが、先輩方から活動を引き継ぎ、地域の皆様に支えられてここまで続けてこられました。7年の活動により公園の池は目に見えて綺麗になり、地域にわずかながらも貢献できていることにやりがいを感じています。今回の受賞を励みに今後もこううんを続けていき、脱炭素社会のため、さらに活動の規模を広げて隊員一同尽力してまいります。

ESD for SDGs 持続可能な未来を考える環境教育

京都市立朱雀第四小学校

〒604-8482 京都府京都市中京区西ノ京笠殿町164

☎075-841-3204 <http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103305>



校舎・ビオトープを生かした環境教育を全学年系統的に行っている。特に4年生以上の総合的な学習「あかしや環境プログラム」で地球温暖化防止や省エネルギーをテーマに探究学習をしている。そしてどの学年もエコフォーラムを行い、自分たちでできることを考え、実践したり、発信したりしている。また、毎月16日を「DO YOU KYOTOデー 環境にいいことしていますか?」として、学校全体でもCO₂削減に努めている。



審査コメント

2050年の脱炭素社会を目指し地球温暖化防止のための環境学習プログラムを全校あげて実践されています。学校のビオトープやエコ改修をした校舎を舞台に活動することに加え、地域の皆さんとの活動も積極的に行い社会とのつながりを大事にされています。当日のプレゼンでは、ユーモアあふれる先生たちの掛け合いや、子供たちのエコライブ宣言・楽しいエコアイデアを紹介するビデオレターがとも目を引くステージでした。さらに環境活動に加えて探求的・ハートフル学習にも取り組まれており、性別や障害国籍をこえた社会について考える授業もされています。20年続いてきた環境学習として2050年に向けた活動に敬意を表し応援させていただきます。

株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長 高林 慎享

受賞者コメント

今回の脱炭素チャレンジカップ2020において、本校が20年以上継続してきた環境教育について、次世代を笑顔にする「最優秀次世代賞」として評価していただいたこと大変感謝しております。ありがとうございます。学校の児童や教職員はもちろん、学習に関わって下さった地域や関係機関の方々に報告をして、みんなで喜びを分かち合いました。この賞を励みに「Do you kyoto? 環境にいいことしていますか?」を合言葉に京都市と共に、2050年にCO₂排出量0につながる学習をこれからも継続・発展させていきます。また、「ESD for SDGs」がテーマである「あかしや環境学習」で持続可能な未来を担う子どもを育てていきます。

CO₂排出量ゼロの展示館による脱炭素社会促進活動

株式会社ダイフク滋賀事業所 日に新たな館

〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225

☎0748-53-8325 <https://www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan/about/>



当館ではCO₂排出削減を心がけた日々の運用に加え、2014年から運営に関わる削減しきれないエネルギー量と送迎バスの軽油使用量から算出したCO₂排出量をCO₂削減事業の排出枠に抛出し、100%カーボン・オフセットすることでCO₂排出量ゼロの展示館を実現。年間約2万人の来館者へ当社環境への取り組みを説明すると共に、CO₂オフセット印字ハガキをお渡しすることで脱炭素への意識を持っていただく活動をしています。



審査コメント

工場や倉庫での製品移動設備で知られる株式会社ダイフクの滋賀事業所は、環境負荷を低減するユニークな取り組みが際立っています。総合展示施設「日に新たな館」でのカーボンニュートラル、社員食堂などから出る天ぷら油から作ったバイオディーゼルを送迎バスで利用、県内最大規模(4.4MW)のソーラー発電設備など、一つ一つが本格的なものばかりで、今後の展開が楽しみです。

株式会社オルタナ 代表取締役 編集長 森 撰

受賞者コメント

この度は大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。当日は緊張が止まりませんでした。私達が行っている活動を皆さんに伝えることができたことを嬉しく思っています。日に新たな館ではご来館くださる年間約2万名のお客様に対して、ダイフク製品だけでなく脱炭素社会促進運動についても知っていただきたいという思いでポストカード配布やメガソーラーのご紹介、小学生の社会科見学の受け入れなど様々な活動を行っています。今までの活動はもちろん、これからも世界に類を見ないCO₂排出量ゼロの展示場としてあらゆる情報を発信していくとともに地球環境の保全に貢献していきます。ぜひ滋賀県にある日に新たな館へお越しください!

地球温暖化の知識・意識・行動の改善に関わる環境教育の実践

秋田北鷹高等学校科学部ESD班

〒018-3314 秋田県北秋田市伊勢町1番1号

☎0186-60-0151 <https://akitahokuyouhsshtestpage.wordpress.com/page/1/>



経済発展に伴うCO₂排出量の増加が見込まれるマレーシアで、小学生～高校生、環境行政関係者等延べ250名以上を対象に環境教育プログラムを実施した。このプログラムは、現地の高校生と協働開発したものであり、行動変容に注目し高校におけるAction Plan作成に繋がる内容に改変して、2019年9月に実施した。なお、プログラムの構築過程で秋田県内2か所、50名程度に対してプログラムを実施した。



審査コメント

経済発展が著しいマレーシアへの普及啓発活動を行う価値は高いと思います。日本モデルの普及啓発活動をそのまま実施するのではなく、マレーシアの高校生と共同でプログラム開発を行っており、現地の事情に合わせた内容に工夫しており、知識・意識・行動の改善が世界への広がるのではないかと期待しています。

NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

私たちの活動が、このような賞を受賞できて、とても嬉しく思います。マレーシアから来日された方々も大喜びでした。他団体の発表や交流会を通じて、この活動には、まだまだ改善することができる箇所がたくさんあるということも再認識することもできました。例えば、このプログラムは、地元地域ではあまり実施していないため、地域の人たちには十分知られていません。また、プログラム内容も日本とマレーシアの違いに分かりにくい部分もあります。今後は、地域内でもマレーシアと同じようなプログラムを実践して、私たちの活動の認知度を高めていきたいです。この継続が、日本とマレーシアの脱炭素に貢献できるように頑張っていきたいと思います。

アオコを肥料へ！ 荒れ地に命を！ 千波湖脱炭素市民プロジェクト

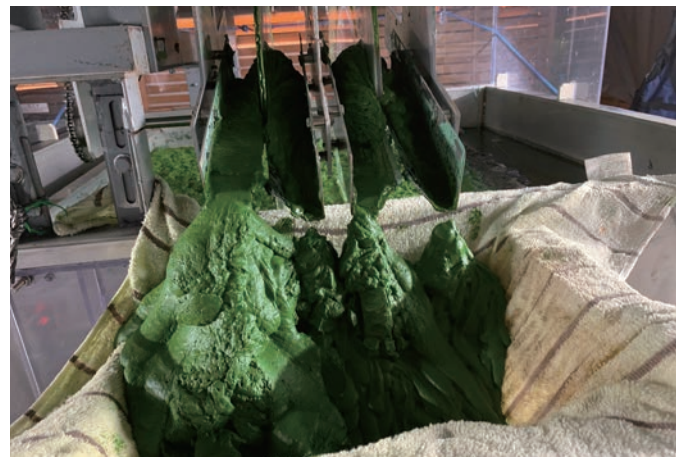
千波湖水質浄化推進協会

〒306-0617 茨城県坂東市神田山935-1

☎0297-20-8866 http://www.kankyokanri.or.jp/emai_senbako.html



千波湖のアオコを減らしていくための水質浄化システムは、千波湖浄化を願う市民とともに考えついたエコシステム。凝集剤などの薬品を使用せずにアオコだけを取り除き、回収されたアオコは肥料になるという画期的な脱炭素化を実現。湖岸には自然再生を目指して市民がヨシを植え、湖内にはガマやアヤメを植えた浮島を10基設置し、植物繁殖促進LEDも装着。周辺休耕田では市民が5haに及ぶ里山再生を行いホテルが復活している。

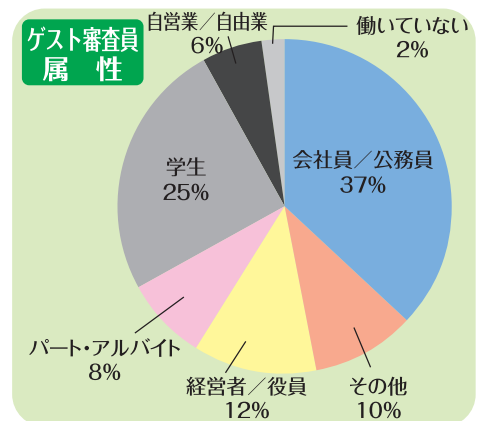


受賞者コメント

日本三大名園の偕楽園に隣接する千波湖の水質を浄化するために導入したマイクロバブル方式のアオコ除去マシンは、水面に浮いているアオコだけを回収・濃縮し、燃やすことなく肥料化することで脱炭素を実現しました。同じ悩みを持つ全国の湖に脱炭素の輪を広げるきっかけになったと思います。体を張った寸劇を楽しんでいただけたことにも満足しています。

審査方法

一般の方を対象に、ホームページで「ゲスト審査員」を公募しました。ゲスト審査員は、ファイナリスト28団体すべてのプレゼンテーション発表を観覧し、最も感銘を受けた2団体へ投票して頂きました。
当日は、65名にゲスト審査員として審査いただき、投票の結果「オーディエンス賞」2団体が決定いたしました。



ふじのくにCOOLチャレンジ クルポ事業

ふじのくにCOOLチャレンジ実行委員会

〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル2階
☎054-271-8806 <http://f-cc.net/index.html>

アプリ「クルポ」を活用した、静岡県の全世代参加型の県民運動。温暖化防止のための活動(クールアクション)を行った方が、アプリから各アクション実施場所に掲示されているQRコードを読みとってポイントを獲得。30ポイント毎に、様々な賞品の当たる抽選に参加できる。クールアクションには、「クール/ウォームシェア」「公共交通の利用」「宅配荷物の再配達防止」など幅広いメニューがある。



審査コメント

アプリを活用した仕組みは、多くの市民が参加できる非常に有効なツールであると思います。クールアクションをポイント付与という形で地域全体で参加を促しており、クルポ事業は静岡県全体に広がっていると感じました。今後も県民運動として益々多くの方が参加することで、大きな効果が期待できると思います。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

オール静岡で取り組んできたクルポ事業を、審査員の皆様に、今後の展開が期待される優れた活動として高く評価していただき、大変うれしく思っています。ご期待いただいたとおり、2月19日の脱炭素チャレンジカップの後にも、新たに、県内に約100店舗を展開するスーパーマーケットや大手コンビニエンスストアチェーンとの連携が決まるなど、クルポに関わる主体はどんどん増え、活動の裾野が広がっています。

今回の受賞を励みに、これからもアプリを通じた楽しく、参加しやすい温暖化防止の取り組みを広げ、継続していきます。ありがとうございました。

ナッジによる省エネ行動誘発に向けた情報デザイン法の構築と実践

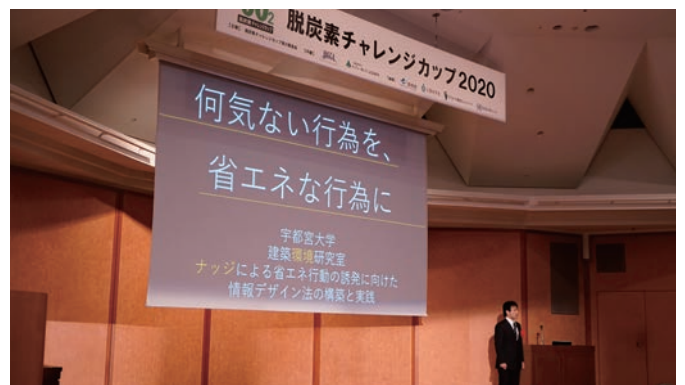
宇都宮大学建築環境研究室

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2
☎028-689-7039 <https://itoigawa1.wixsite.com/uu-kankyo>

我々の取組は、「情報デザイン法の構築と実践」と「活動を通じた温暖化防止マインドの育成」で構成されている。

「情報デザイン法の構築と実践」では、省エネ行動の誘発に向けた情報(ナッジ)をデザインする方法を論理的・学術的に構築し、栃木県を中心として全国各地で実践や効果検証を行っている。

「活動を通じた温暖化防止マインドの育成」では、省エネ行動誘発につながるナッジのデザインを、学生が担っている。



ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

優秀賞

地産地消・食品ロス削減を通してSDGsへの挑戦

徳島県上板町立高志小学校

〒771-1347 徳島県板野郡上板町高瀬1108

☎088-694-2815 <https://e-school.e-tokushima.or.jp/kamiita/es/takashi/html/htdocs/>

食品ロスの削減・地産地消の推進(フードマイレージ)といった「社会的課題」を解決するため、地域の一次産業(野菜、藍、養豚等)従事者、学校給食センター、各種企業、関係行政機関(徳島県庁・町役場)、NPO等と連携し、生産過程で発生する規格外農産物の活用、阿波藍の六次産業体験、各種地産地消体験、エシカル消費体験を通してSDGsへ挑戦、低炭素社会実現に向けて課題解決的・プロジェクト的に教育活動を行う。



市民部門

優秀賞

小さな自然エネルギーを活用した「限界集落再生」化プロジェクト

NPO法人環境とくしまネットワーク

〒772-0051 徳島県鳴門市鳴門町高島字竹島462番地

☎090-3786-2276 <http://kankyoutokushima.web.fc2.com/index.html>

公共サービスが行き届かない中山間過疎地区で、地域の未利用再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力)等、地域資源エネルギーを活用することで、地域コミュニティの復活再生に向け、小型版再生可能エネルギー発電機を設置、確保できるエネルギーの実測データと周辺の自然環境気象も同時計測、その結果を基に、対象コミュニティが地球温暖化対策・地域づくり・防災対策に向けての自立育成プロジェクトとなります。



自動車部品廃材によるリサイクル品研究・開発

ドリームやまがた里山プロジェクト

〒990-0031 山形県山形市十日町3-9-36
 ☎023-666-6967 <https://satoyama.yamagata-npo.net/>

山形県では年間約3.5万台が使用済み自動車として適正処理されます。その90%はリサイクルされますが、残り10%は破棄されます。廃棄物削減と、近年多発する水難事故対策として、シートベルト・エアバッグ、そしてマイクロプラスチックの原因である発泡スチロールを活用し、全国初の試みのライフジャケットを製作しました。製作後は、海・川での事故ゼロを目指したライフジャケット着用向上訴求イベントを県内各地で開催しています。



ハーモニーロードウッド(木質加熱アスファルト舗装)

田中建材株式会社

〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1677-14
 ☎0740-22-0217 www.tanakakenzai.co.jp

解体から発生した木質は、当時、焼却処分が主流でした。最初に肥料化に取り組み、その当時としては国内で初めて肥料化を認めていただきました。しかし、価格面で市場に対応できませんでした。次に、炭化に取り組み、農業排水の吸着剤として利用し圃場に循環するシステムを農協や滋賀県と試験施工しました。効果的には良い結果を得られましたが、現状農業でのコスト負担の壁に阻まれました。次に木質の舗装に取り組みました。





企業・自治体部門

優秀賞

森林資源フル活用プロジェクト「森活」

会津森林活用機構株式会社・会津地域森林資源活用事業推進協議会

〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字常盤町2706
☎050-3818-7048 <http://www.a-forest.co.jp/index.html>

- ◇会津地域の未利用森林資源のフル活用を目指し、川上～川中～川下まで合理的な活動を行う。未利用森林で主伐再造林を行い、製材品・燃料チップの製造とともにCO₂削減を図り、地域循環型の林業を推進していく。
- ◇単一市町村では需給バランスを描くことの難しい林業、製材業、バイオマス事業いずれにおいて、会津地域13市町村と民間とが協業で進めていくことで、実現性のある構想・計画・事業化が可能となる。



企業・自治体部門

優秀賞

小さなエコから大きなエコまで実践体感、そして普及活動へ!

株式会社三創

〒983-0822 宮城県仙台市宮城野区燕沢東1-10-30
☎022-388-1391 <https://www.yane-sanso.com/>

弊社敷地内で庭づくりをした事がきっかけで、雨水利用や段ボールで作る生ごみ堆肥作りを始めたことで環境・エコに目が向くようになりました。

エコ活動を通して多くの人と関わり、楽しくエコ活動を続ける方法などを模索しながら地球温暖化対策に寄与できる、雨水利用の普及、循環型庭づくりの普及、太陽光発電の普及、電気自動車の普及をめざしています。





企業・自治体部門

優秀賞

地方特産品の食品リサイクル・ループプロジェクト

株式会社マルミヤストア

〒876-0815 大分県佐伯市野岡町2丁目1番10号
☎0972-23-8111 <http://www.marumiya-st.jp/>

大分県内の産地および資源再生事業者と連携し、店舗から排出される食品残渣を肥料化、その堆肥を用いてトウモロコシの栽培を行い、再び店舗で販売する食品リサイクル・ループを構築した。

さらに消費者を産地に招き、生産者との対話や店頭に並ぶ食品がどのような経路を経て販売されるか、現地での収穫体験や親子料理教室を通じ貧困や食品ロスの社会的負担等を知る食育活動を開始し、今後も継続する計画である。



企業・自治体部門

優秀賞

みんなで地球をまもろう！～ごみの分別排出の徹底とリサイクルの推進～

マルイファミリー溝口・ノクティプラザ

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口1-3-1
☎044-814-7777 <https://www.0101maruigroup.co.jp/> <https://www.nocty.jp/>

ゴミ処理の運用を大幅に刷新し、分別サポート人員の配置やテナント毎の種類別計量、データ管理を実施することで、分別の徹底とリサイクルを推進しています。処理施設は名称を「エコファクトリー」としてリニューアルし、スムーズな導線確保や分かりやすい案内表示など誰もが安心して分別できる環境を整えました。その結果、リサイクル率は78%（前年度比+35%）と大幅に向上しました。





ファイナリストの声

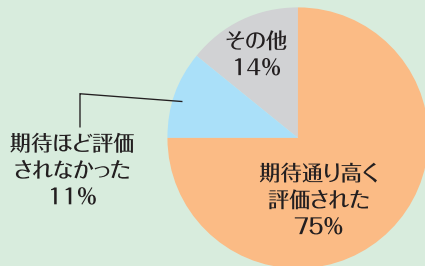
アンケート調査概要

対象者：ファイナリスト28団体

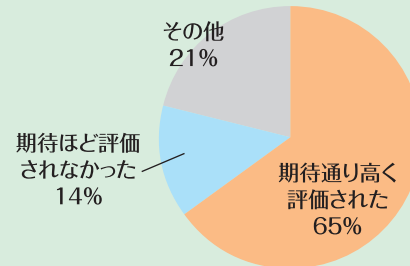
回答数：28団体

内容：応募から、「脱炭素チャレンジカップ2020」当日のプレゼン発表までの関わりの中で、各問に対してご回答いただきました。（一部抜粋）

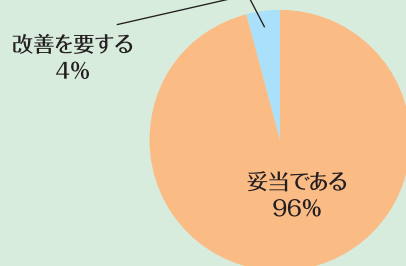
Q. 貴団体がファイナリストに選ばれたことは内部でどのように評価されましたか



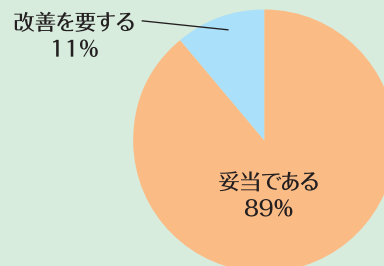
Q. 貴団体がファイナリストに選ばれたことは周囲でどのように評価されましたか



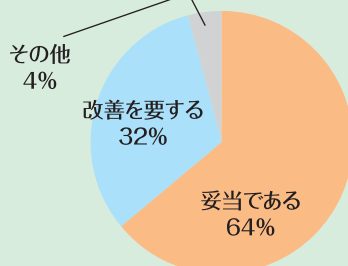
Q. 応募要項の分かりやすさや、エントリーシート（応募資料）の内容等について



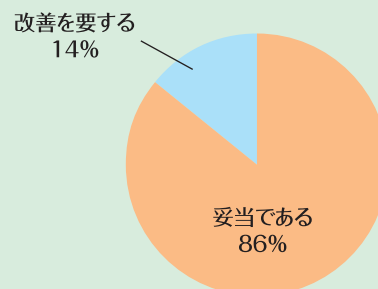
Q. 会場（伊藤謝恩ホール）について



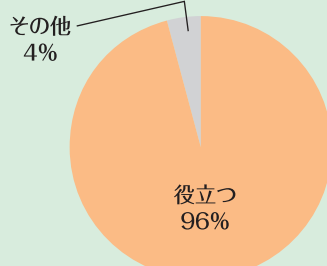
Q. 脱炭素チャレンジカップの開催曜日（平日）について



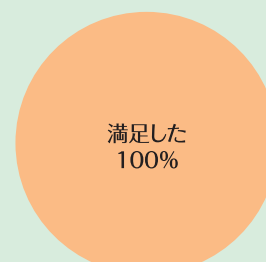
Q. プログラム構成について



Q. 今回の脱炭素チャレンジカップの出場は、貴団体の今後に役立つと思われますか



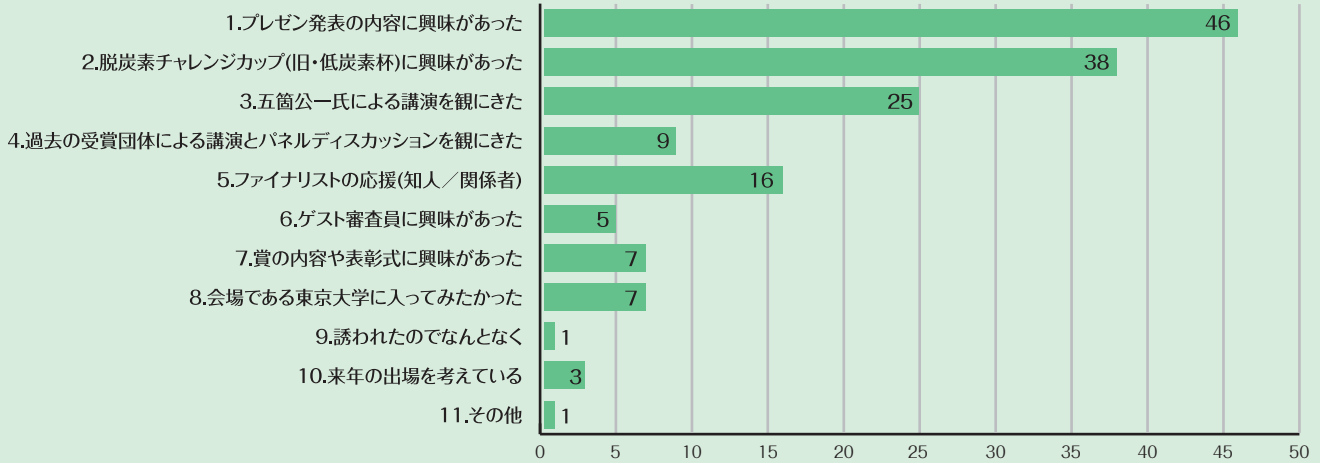
Q. 応募から準備までの担当者の対応について



来場者の声

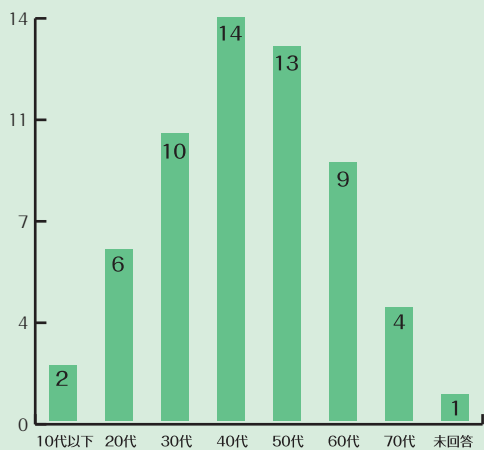
来場目的(複数回答)

n=158



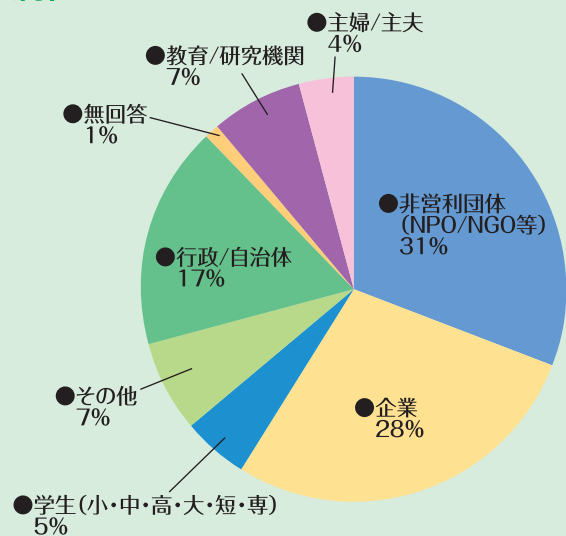
年代

n=59



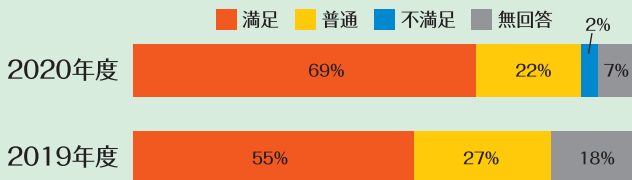
属性

n=59

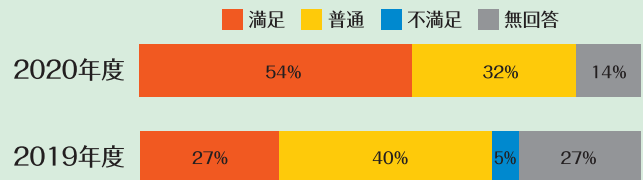


満足度(昨年度との比較)

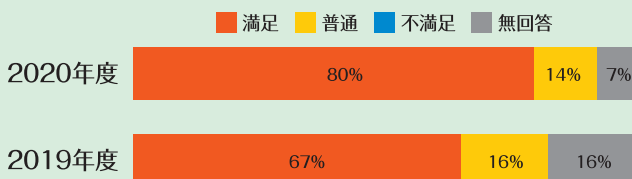
脱炭素チャレンジカップ(旧・程炭素杯)全体



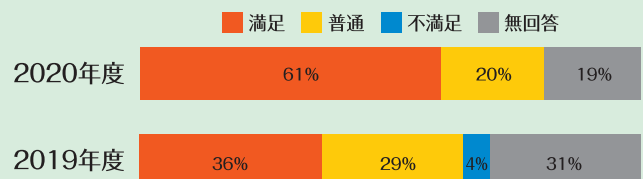
利便性・会場



プレゼン内容や演出



スタッフの対応



ご協力いただいたみなさまのご紹介

アンバサダー専用ロゴ

“アンバサダー”として、脱炭素チャレンジカップを盛り上げて頂きました！

前身の低炭素杯に出場したことのある方の中から、「低炭素杯“愛”」にあふれ、自身の活動フィールドを生かしながら「低炭素杯・脱炭素チャレンジカップ」を草の根的に広めることを目的に、2017年よりアンバサダー制度を実施しています。本大会では4名の方に、脱炭素チャレンジカップアンバサダーとして活躍いただきました！



● 元 栃木農業高等学校 教諭 小森 芳次 様

当大会は、世代を超え脱炭素社会構築を目指し、全国各地の多種多様の優れた活動を発表する場です。私達、栃木農業高校は、豊かな地域資源の保全・生活文化の復活継承に取り組んだ結果、低炭素杯2012、2013の全国大会にて2年連続環境大臣賞グランプリを受賞させていただきました。

この大会で得られた世代間連携・地域おこし活動などの体験報告は、卒業後、社会人として「生きる力」を育む原動力となっています。



● FMおとくに 事務局長 木本 直樹 様

脱炭素社会の構築を目指して今年度より新たなスタートを切った「脱炭素チャレンジカップ」。今回も地域で活躍する皆さんの元気なお声を聞くことができました。

気候変動はこれまでに経験したことのない大規模な台風や豪雨など、私たちの暮らしに与える影響は大きくなっています。

この大会を通じて気候変動を止めるための地域活動の輪が広がり、一人ひとりが生活スタイルを見直すきっかけになればと願っています。皆さん、またお会いしましょう！



● ファインモーターズスクール 営業企画部 広報チームチーフ 齊藤 千絵 様

脱炭素チャレンジカップのゆるっとした温かい雰囲気が好きです。私は2016年の低炭素杯でエコドライブを様々な世代に啓発する内容を発表し、文部科学大臣賞を頂きました。その後はアンバサダーとしてゲスト審査員や当日受付のお手伝いしています。会場には洗練されたアイデアを持った様々な地域や世代の方が集まります。世の中にまだ知られていない取り組みも沢山あって、まさに宝箱のような大会だと思います。そんな脱炭素チャレンジカップをもっと多くの人に知ってもらいたいです。



● エコドライブ研究所 代表 福田 慎太郎 様

私の大好きな低炭素杯。アットホームで温かみのある雰囲気はそのままに、今回から脱炭素チャレンジカップとして生まれ変わりました。2014年の初ファイナリストから、3度目の正直で文部科学大臣賞を頂いた後もずっと関わらせていただいているこの大会。今年もアンバサダーを務めさせていただき嬉しく思っています。これからも脱炭素社会を目指す皆さまと一緒に大会を盛り上げていければ幸せです。さあ、エコドライブに取り組みましょう。

“協力団体”として広報面・当日のスタッフとしてもご協力いただきました！

こどもエコクラブ全国事務局 (公益財団法人 日本環境協会)



こどもエコクラブとは、幼児から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブで、現在約1,800クラブ、10万人を超える子どもたちが全国で活動しています。

「ジュニア・キッズ部門」への子供たちの応募を促進するべく、こどもエコクラブに協力いただき、登録クラブにエントリー募集の声がけをしていただきました。今回は、ファイナリストの中で2団体がこどもエコクラブの関係/登録団体でした！

自動車教習所 ファインモーターズスクール



ファインモーターズスクールは、低炭素杯に何度も出場、受賞している常連団体で、免許取得の際に自然とエコドライブが身につく「楽エコ教習」を基軸に、小学校でのエコドライブ寸劇や、自治体職員向けのエコドライブ指導者養成など、多様な取り組みを通じて「エコドライブ」の普及を行う自動車教習所です。今年は当日に、受付スタッフとして、事務局と一緒に汗を流していただきました！

脱炭素チャレンジカップへの寄付にご協力いただきました

全国各地の多種多様な優れた取組を広く伝え、交流・連携を図る場である「脱炭素チャレンジカップ」は、前身の低炭素杯を含めた10年間に、全国から数千団体にご応募いただき、計358団体を超えるファイナリストがステージ上で自らの取り組みを発表しています。

参加者同士、またファイナリストとスポンサー企業の間にも新たな共同事業展開という嬉しい成果も生まれています。この動きをさらに進化させ、「脱炭素チャレンジカップ」を持続して開催していく為には、想いに賛同・共感して下さる皆様のサポートが必要です。

今年度は以下の皆様方にご寄付をいただきました。

～直接寄付をいただいたみなさま～

- 小宮山 宏 様
 - 野口 正一 様
- 計 300,000円

～古本募金に参加いただいた皆様～

このたび、本やDVDなど使い終わったものをリサイクル換金して寄付できる、「古本募金(きしゃぼん)」を実施し、以下の皆さまから古本募金でのご寄付をいただきました。

- ストップ温暖化センターみやぎ 様
 - 藤本 滋生 様
 - 大分県センター 安藤 様
 - 藤本 滋生 様
 - (公財)ひょうご環境創造協会 様
 - 静岡県地球温暖化防止活動推進センター 様
 - (株)オリエンタルランド社会活動推進部 様
 - 二宮 友佳子 様
 - 株式会社フォトワークス総務部 様
 - 大嶋 浩介 様
 - 櫻田 彩子 様
 - 山本 沙樹 様
 - 大牟田市立明治小学校
有志一同 代表 宮崎 紀子 様
 - 藤本 滋生 様
 - 畑山 芳文 様
 - 丸文通商株式会社総務課 様
 - 石川県地球温暖化防止活動推進センター 様
 - 湯川 麻矢 様
 - 仕田中 アヤ子 様
- 計31,112円

皆様から頂いた協賛・寄付金はファイナリスト参加費用や、会場費等の運営資金に大切に使用させていただきました。

是非とも来年の「脱炭素チャレンジカップ」開催のため、引き続きご支援をお待ちしております!

支援方法

■ 協賛する

「脱炭素チャレンジカップ」ウェブサイト上の申し込み用紙をダウンロードし、申込用紙を事務局メールアドレス teitanso-hai@jccca.org 宛にお送りください。その後事務局より手続きのご連絡をいたします。

■ 寄付する

寄付は3コースあり、コースによって特典が異なります。以下コースと口数を選び直接お支払いください。

5,000円/口コース

特典 報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付

10,000円/口コース

特典 報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付
次年度の脱炭素チャレンジカップ懇親会への招待(1名様まで)

20,000円/口コース

特典 報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付
次年度の脱炭素チャレンジカップ懇親会への招待(2名様まで)

*懇親会は、立食パーティー形式で、新たな出会いの場となっています。

ゆうちょ銀行 ○一丸(ゼロイチキョウ)店(019)
当座 0791958
ティタンソハイジムキョク
低炭素杯事務局

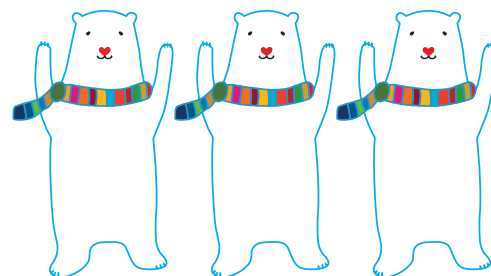
■ セブン-イレブン店頭募金箱に募金する

共催企業のセブン-イレブン記念財団は、全国のセブン-イレブン店頭へ寄せられたお客様からの募金と、(株)セブン-イレブン・ジャパンからの寄付金とを合わせて、環境をテーマにした市民活動や自然環境保護保全活動を支援しています。その募金の一部は、「脱炭素チャレンジカップ」へと協賛されます。

■ 古本募金で寄付する～0円で寄付しよう～

このたび、脱炭素チャレンジカップでは本やDVDなど使い終わったものをリサイクル換金して寄付できる、「古本募金(きしゃぼん)」を実施しています。

皆様に負担いただく費用は0円です!本を5冊以上集めて [脱炭素チャレンジカップ きしゃぼん](#) 検索し、申し込みフォームに則って入力すれば手配完了です。ご希望の日程に本の集荷業者が参ります。



これまでの歩み



低炭素杯2019

- 開催日：2019年2月8日(金)
- 会場：カルッツかわさき
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
姫島エコツーリズム(大分県)
「エコアイランドと地域活性化を目指した超小型EVの活用」
- 総エントリー数：1,425件
- ファイナリスト数：28件



低炭素杯2018

- 開催日：2018年2月15日(木)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
岩手県立遠野緑峰高等学校(岩手県)
「ポップ和紙開発プロジェクト」
- 総エントリー数：1,170件
- ファイナリスト数：30件



低炭素杯2017

- 開催日：2017年2月16日(木)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部(佐賀県)
「昔に帰る未来型 ～佐賀市上下水浄化センターを「宝を生む施設」に～」
- 総エントリー数：951件
- ファイナリスト数：26件



低炭素杯2016

- 開催日：2016年2月16日(火)・17日(水)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
しずおか未来エネルギー株式会社(静岡県)
「静岡発!!みんなで創る地域発電所」
- 総エントリー数：1,993件
- ファイナリスト数：38件



低炭素杯2015

- 開催日：2015年2月13日(金)・14日(土)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
下川町(北海道)
「地域資源“森林”を活用したエネルギー自給型小規模自治体モデルの構築 ～誰もが暮らしたいまち、誰もが活力あるまち～」
- 総エントリー数：1,730件
- ファイナリスト数：39件



低炭素杯2014

- 開催日：2014年2月14日(金)・15日(土)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
株式会社ウジエスーパー&株式会社ウジエクリーンサービス(障害者特例子会社)(宮城県)
「『エコーガニックwithノーマライゼーション』食品スーパーが提案する環境ループ事業」
- 総エントリー数：1,620件
- ファイナリスト数：41件



低炭素杯2013

- 開催日：2013年2月16日(土)・17日(日)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班(栃木県)
「麻の郷とちぎの環境資源を次世代に」
- 総エントリー数：1,371件
- ファイナリスト数：40件



低炭素杯2012

- 開催日：2012年2月18日(土)・19日(日)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班(栃木県)
「守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り」
- 総エントリー数：108件
- ファイナリスト数：41件



低炭素杯2011

- 開催日：2011年2月5日(土)・6日(日)
- 会場：東京大学安田講堂
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体
環境NPOオフィス町内会(東京都)
「森の町内会(新たな仕組みによる干ばつ促進と森林のCO₂吸収)」
- 総エントリー数：70件
- ファイナリスト数：47件



一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事長

高田 研

本年度エントリーいただいた183の団体。600人の当日参加者、協賛いただいた企業、そして文科省、環境省、審査委員、実行委員の皆様。この取り組みに関わっていただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

環境大臣のグランプリを受賞されたNPO法人田舎のヒロインズは、脱炭素の取り組みとしてだけでなく、農村地域の再生、ジェンダー、そして日々の生活労働をおしゃれに捉え直すSDGsの視点にあふれた元気の出るものでした。

千波湖水質浄化推進協会の皆さんの「アオコを肥料へ!荒れ地に命を!千波湖脱炭素市民プロジェクト」のパフォーマンスはアオコから堆肥に変身する、会長自らが身体を張った発表でした。本来は地味な日々の活動を印象深く伝えようという意気込みに溢れ、マクドナルドオーディエンス賞を獲得されました。

私の大学があります都留市の小水力市民発電所の取り組みが、このアワードの前身に当たりますストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会2008で金賞をいただいております。鎧兜に身を固めて勇ましく出陣した当時の担当者とアオコを演じられた会長の姿が重なりました。

都留市の取り組みは受賞後全国区となり、見学に来られた小水力発電メーカーのS社は市内に国産の発電機を設置しました。また全国の自治体や研究機関からの視察が増え、2012年までに視察者は1万人を超えました。このようにアワードの成果としては表には出ない“効果”は今回もそれぞれに大きいと思います。

今回受賞された岡山県の学童保育の実践は、地域の子育て基盤として重要な役割を担って地道に活動を続けているみなさんが施設の木造化に取り組んだもので、一般社団法人日本WPAからの賞をいただきました。また、京都府立桂高等学校は、廃棄されるコーヒー残渣を、きのこの菌床栽培に活用した循環型農業に向けての取組が、セブン-イレブン記念財団の最優秀地域活性化賞を受賞しました。財団は、今後も関係していくということでした。

受賞がゴールではなく、このように支援する企業との良い出会いが生まれ“効果が持続する仕掛け”となっていくことを期待したいと思います。



共 催 脱炭素チャレンジカップ実行委員会

共 催  一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

特別協賛  

協 賛   一般社団法人 日本WPA   公益財団法人 SOMPO環境財団

     一般社団法人 ZEH協 ZEH推進協議会

協 力      よろこびがつなく世界へ 

後 援  環境省  文部科学省  プラチナ構想ネットワーク  国連広報センター

事務局 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

お問い合わせ先



脱炭素チャレンジカップ事務局
(地球温暖化防止全国ネット内)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階
TEL:03-6273-7785 FAX:03-5280-8100
teitanso-hai@jccca.org
<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>



この印刷物は、FSC®認証紙を使用し、「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPにより製版しています。

